



# おおくす



渋川小HPのQRコードです

## 積み重ねる 過程が大切

校長 野田 恵美

昨年は、「歌わないと子供は歌えなくなる」ということを実感した1年でした。突然の休校から2年。急に「さあ、声を出してごらん」と言われたところで、「音を外しちゃいけない、声ってどれだけ出せばいいのだろう?」と自信がもてず、子供たちは歌えなくなるのです。これは自然なこと、大人だって、やっていなければ、自信がもてないし、自信がないことはやりたくありません。「発表会があるから歌いなさい」と言われたところで、練習を重ね、自信がつき、「みんなに聞いてほしい」という気持ちがなければ、歌えないのです。

そもそも歌うということは、楽しいものです。自分の声が周りと一緒に響くと、気持ちがよくなります。気持ちがよくなると、嬉しくなってもっと声を出したくなります。声が出るとさらに響き合って楽しくなります。2年間の空白を埋めるには、まずはそこからだと考えました。1学期から朝の活動の時間を使い、少しずつ少しずつ、発声練習から始め、10月頃からようやく臆せずに声が出るようになり、歌に気持ちがのり始めました。

子供たちの気持ちがのってきたことのパロメーターが「体の動き」と「授業の後の帰り道」です。低学年は、歌っているときに楽しく、気持ちよくなると、目が大きく開き、自然に体が揺れます。高学年は授業で歌声がうまく溶け合っていて、「うまいった!」と実感したときには、教室に戻るとき、歌いながら校長室の前を通っていきます。聞いているこちらでも嬉しくなって、廊下で歌ったり、校長室の中で勝手に子供の声に混じって歌ったりしています。

地域行事の折に、地域の方から「公民館にいるときに聞こえてくる歌声が上手になってきたなあ。だんだん自信が出てきたんだなあ」「聞こえてくる笛の音が大きくなってきたね。最初は心配になっちゃったけど、そろってくと



こっちも嬉しいなあ」などの言葉をいただきました。「発表の場」にお招きすることはできなくても、日々の子供たちの成長に気付き、「過程」を大切に思ったださっているのだと本当に嬉しく思いました。また、各家庭の皆様には、音楽発表会の方法変更之际、学校の思いをご理解いただき、全面的にご協力をいただいていることに改めて感謝しています。本当にありがとうございます。

この心配な状況を抜け、隣の子と息を合わせて、思い切り歌い、演奏し、子供自身の「聞いてもらいたい」という気持ちが満たされる日のために、そしてたくさんの方にその姿を見ていただく日のために、まずは、土台となる部分から一つずつ積み重ねていきます。今年度はペア学年での交流という形ですが、上学年は下学年の手本になるよう頑張ってくれるでしょうし、下学年は上学年に負けないように全力を出してくれることでしょう。互いの姿を見て学ぶ、渋川の伝統をつないでいきたいと思ひます。

### ●合唱曲「群青」について ※ 群青は渋川小学校の音楽発表会で歌い継がれており、今年度もどの学年も歌います

この曲は、福島県南相馬市の小高(おだか)中学校合唱部により初めて歌われました。

彼らは今から11年前の3月11日、東日本大震災による原発事故からの避難のため、家や学校を失いました。106名の子供たちは、全国に散り散りとなり、学校が再開されたときには、たったの7名になっていました。「群青」は、離ればなれになってしまった仲間を思い、あふれた言葉の数々を集めてつくられました。別れを告げることも、再会の約束することもできないまま、別れてしまった友人への心からのエールです。近年も、災害で住み慣れた家が水に浸かったり、流されたりして住む場所を失ってしまった方がたくさんいます。望まない争いにより、家族や友人を失ってしまった国の人もいます。

歌詞に「当たり前が、しあわせと知った」とありますが、私たちが、普段、何気なく生活できていることに感謝しなくてはならないと改めて思ひます。群青の子供たちがいつの日か、群青の町で再会することを願ひながら、そして私たちの「大切な当たり前」が続くよう、渋川っ子が心を込めて歌ってくれることを期待しています。



## 【社会見学の秋 発見の秋】

11月は多くの学年で社会見学が計画され、4日(金)には3年生が足助屋敷とモリコロパーク、4年生が木曾三川公園、船頭平公園、輪中の郷に行き、8日(火)には5年生がトヨタ産業技術記念館、18日(金)には1年生が東山動植物園へ行きました。どの日も好天に恵まれ、たっぴりと本物に触れることができました。それぞれの学年で、五感を使って数多くの発見をしていました。国語や社会、総合的な学習などで生かしていきます。



## 【危険を予測する大切さ 無事を知らせる大切さ 校区自主防災訓練】

11月13日、校区自主防災訓練が行われました。訓練の前には、市長さんから激励の言葉をいただきました。訓練が始まると、自治会長、町内会長、組長、班長が各家庭の「我が家は無事です」のカードがかかっているか、危険箇所はないか、消火器はどこにあるかなどを確認し、体育館で地図に印をつけました。その後、国土交通省 庄内川河川事務所の方から、最近の風水害の状況や水災害にどのように備えているかなどのお話をいただきました。「わが家は無事です」のカードをかけておくことで、救助の時間が短縮されます。カードがない場合は代わりの物でも構いません。全校集会で子供たちにもカードの意味を話しました。もしものときのために備えて、どうするかをご家庭で話し合っておくとよいですね。



■ 地区の消防設備や危険箇所の点検  
地図に色別シールを貼り、全体を把握します

■ 「わが家は無事です」カード  
門や玄関にかけておきます

■ 風水害に関する講話  
庄内川河川事務所より

## 【人権週間について】

12月10日は「世界人権デー」です。世界人権宣言が、1948年12月10日の第3回国際連合総会で採択されたことを記念したものです。日本では毎年12月4日から10日までを「人権週間」としています。

渋川小学校でも「人権を理解する作品コンクール」「いじめ防止標語コンクール」をとおして、人権について考えるきっかけとするとともに、学校集会や朝の会などの時間を利用して人権に関する話をしたり、道徳や学活の時間に人権を理解する内容にふれたりします。

ご家庭でも、人権についてご家族で話し合っていたく機会にいただければと思います。

